

1

①

青虫

②

野生

③

夏鳥

④

羽毛

⑤

金魚

2

1

A

イ

B

ア

2

ウ

3

②

ア

③

イ

4

花

よ

り

5

ア

1

イ

2

ウ

1

3

1

は

ん

た

い

2

左

3

ア

4

A

イ

B

ア

C

ウ

5

ウ

6

す

て

7

へ

こ

ま

配点

1 各2点×5=10点

2~3 各5点×18=90点

<計>100点

① 漢字の書きとり問題は小学校二年生までに学習したものを出题している。また、今回は、動物に関する関係のあることばばかりを出題した。漢字の学習は、字の学習であると同時に、ことばの学習である。知らないことばはしっかりおぼえてほしい。

②

1 Aは、ここからことわざの例がいくつかあげられていることからわかる。Bは、すぐ後ろに「自分のことにも、いえませ」とあるので、ならべていることがわかる。

2 「失敗をした人」にいうことわざである。「失敗は成功のもとだよ」ということは、今回は失敗したけれど、つぎはきっと成功するよといっているのに近い。元氣が出るようないい方である。

3 ②は、「その場から離れる」のだから、「たたかう」や「勝つ」はおかしい。③は、「相手に勝ちをゆずる」のだから、「負ける」がよさそうだ。ということは、②は、「逃げる」がよい。

4 本文中に出てきたことわざは、「花より団子」「失敗は成功のもと」「あしたはあしたの風がふく」「急いで事はしそんじる」「念には念を入れる」「逃げるが勝ち」「負けるが勝ち」の七つである。このうち、はじめの三つが人に伝えているもの、あと四つが自分に言い聞かせているものである。問題の「やんわりと」は、相手のきげんをそねないような言い方をさしている。

5 ア 『『なるほど』と思わせ』は、本文中の「わかりやすく伝えたりする」から、正しいとわかる。

イ 「ことわざを知らない人に気持ちを伝えることがまったくできない」は、常識と照らし合わせてもおかしいだろう。「ことわざは、自分の気持ちを、やんわりと伝え」るのによい、と言っているだけである。

ウ 本文中に「自分のことにも、いえませ」とあり、ことわざをもとにして行動を決めているのが読み取れる。

③

1 「あまのじゃく」ということばを知っていれば話ははいが、そうでなくても、すぐうしろに、「……のです」というかたちで、じいさんについて説明しているのだから、「あまのじゃく」とはどういうものかわかる。なんでもひとはんたいをすること」と、なんでもひとはんたいをするひとの二つの意味でつかわれる。

2 「なんでもひとはんたいをする」のだから、「右」のはんたいを答えればよい。

3 すぐ前の「ことしのねんぐのたかいのには、こまったもんじゃ」のようなことをいうのがこぼす。「ぐちをこぼす」といういい方もある。いってもどうしようもないもんくを、ついついついてしまうのが「こぼす」である。

4 A じいさんはほんとうに「へいき」のではなく、「ひとはんたい」がしたいのである。

B なんにもじいさんが立ち直れないほどやっつけてほしいというのではなく、いつもとくいげないさんが、少しだけ小さくなってくれればいいのである。「ひとつ」には「ちょっと」「ために」という意味もある。

C すぐに行ったのであろう。

5 「わたしにはかなうめえ」ということは、自分がぜったいに勝つと思っているのである。

6 あまのじゃくのじいさんなので、「さかなをつりにいってきた」のはんたいをいわなければならぬ。「つる」のはんたい、とかがえるとよくわからないかもしれないが、じいさんのことばをきいた吉四六さんが「すてたもんなら、ひろっていくか」といっているのだからわかるだろう。

7 答えがかなりはなれたところにあり、さがしにくかったかもしれない。そもそも吉四六さんは何をしにきたのかというと、村のひとたちにたのまれて、あまのじゃくのじいさんを「へこまし」にきたのである。そのことがわかっていけば、「へこまし」の意味がわからなくても答えはなんとか出せたのではないか。